

だより



支援連携だより R4・4号
令和4年 10月 27日
小田原養護学校 支援連携部
題字:高 A2年生徒作品

やっと、厳しい暑さが落ち着いてきましたね。暗くなると、虫の音があちらこちらから聞こえてきて、秋の気配を感じます。さて、今回は、最近のニュースから特集を組みました。

特集 インクルーシブ教育のいま

～最近のニュースから



この夏、障害者の権利条約に関連して、国連から日本が受けた勧告がニュースになっていました。



障害のある子どもたちが、特別支援学校や特別支援学級に「分離」されることで、通常の教育を受けにくくなっている

インクルーシブ教育の原則は、
通常の学校内に
すべての子どもたちを
受け入れること サマランカ宣言抜粋

障害のある子どもたちを分離する
現状の特別支援教育をやめるべき

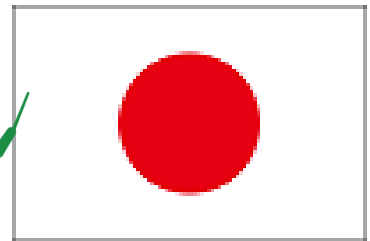


この勧告を受けて、
日本の文部科学省は…

インクルーシブ教育の実現に向けて、
次の二つのことに取り組んでいる

障害のある子どもと障害のない子どもが
可能な限り共に
過ごす条件整備

一人ひとりの
教育的ニーズに
応じた学びの場
の整備



多様な学びの場において
行われている特別支援教育を
中止する考えはない



日本のインクルーシブ教育は、世界から見ると、まだ充分ではない部分もありますが、少しずつ実現に向けて歩みを進めていることも確かです。

障害を理由に、
学校に通えない

【1980年以前】

養護学校
の設置

障害がある子どもは、
原則、養護学校に就学

本人、保護者の意見を最大限尊重して就学先を決定する

【2013年以降】



神奈川新聞でも、このニュースに関連した連載記事が掲載されていました。
～8/19～22「共に学ぶ考・国連審査」～

8/19

障害当事者・川端舞さん

「通常学級就学は権利」

▶「能力主義・支援不足…自分が経験した小中学校の通常級での教育は果たして、インクルーシブ教育といえるのか」

8/20

ダウン症の立畠豪君 母の願い

「助け合える環境こそ」

▶「学力や行動面で周囲と違う場合に厳しいまなざしが向けられ、通常学級がどんどん窮屈な場になっていないか」

8/21

研究者・一木玲子さん

「通常学級の変革必要」

▶「現状では本人や保護者が通常級を希望した場合にでも、教育行政が拒否をするケースが後を絶たない。制度改革が不十分なためだ」

8/22

先進地で学ぶ元教諭・池野絵美さん

カナダ「どの子どもも歓迎」

▶「BC州のインクルーシブ教育の代表的な定義の一つでは、歓迎を意味する【Welcome】が使われている」

次号

神奈川県（緑色地図）のインクルーシブ教育実現に向けての取り組みを紹介します。

開催中

小田原養護学校作品展

10/24(月)～11/4(金)

おだわら市民交流センターUMECO

お近くにお越しの際は
お立ち寄り
ください

小田原養護学校特別展

12/5(月)～11/16(金)

湯河原町社会福祉協議会



障害者の権利条約は「私たちのことを、私たち抜きにきめないで」という考えが大切にされています。

だからこそ、その実現のためにたくさんの話し合いが重ねられ、多くの時間がかけられています。

その話し合いは、今も続けられていて、今回のニュースもその一部だと感じます。